

## 第1回中小企業向け事業引継ぎ検討会 議事要旨

日時：平成26年12月16日 10:00～12:00

場所：別館1階 101-2、103共用会議室

出席者：山本委員(座長)、飯野委員、石塚委員、榎本委員、太田委員、  
金子委員、河原委員、久保委員、小林委員、塩野委員、清水委員、  
高井委員、田中委員、玉越委員、堤委員、中村委員、根津委員

### 議事概要

- ・事務局から、事業引継ぎの現状と課題、事業引継ぎガイドライン（仮称）、M&Aの名称等について説明を行い、自由討議が行われた。自由討議の概要は以下のとおり。

#### 1. マッチングのあり方について

- ・理想を言えば、売り手、買い手双方にサポーターが必要だが、小規模事業者の場合は、現実的には仲介というスタイルになる。セカンドオピニオンについて触れてはどうか。
- ・後継者不在の企業は、高く売りたいというよりも、後継者を見つけたいという思いが強く、仲介の方が円滑に進む。
- ・地域の金融機関等、双方の事情が分かっているところがマッチング役として相応しい。

#### 2. 事業引継ぎについて

- ・多くの経営者は、事業譲渡を決定するのに時間を要し、事業譲渡に戸惑いを感じる人も多いことから、背中を押してやる必要がある。
- ・M&A後においても、現経営者が当面、顧問として残り、従業員や取引先との関係を維持することもできるなどの説明を加えるべき。
- ・小規模事業者については、地域の雇用や取引先との関係を残す仕組みを考えると、廃業プラス引継ぎのケースが増えてくるのではないかと。引継ぐのは従業員や取引先。
- ・秘密保持がM&Aで最も大切な事項であると明記すべき。
- ・様々な仲介業者が存在することから、チェック機能をどう持たせるかが重要。
- ・センターに苦情処理窓口があると健全なマーケットのためにはいいのではないかと。
- ・売り手が自分の不都合な情報を隠すことが良くないということを啓蒙する記載が必要。

- ・ 磨き上げの時期は、買い手に移行してからでも遅くない。予め磨き上げないとM&Aが出来ないとなると時機を失するため、自由度を設けて欲しい。
- ・ 様々な仲介業者がいることから、ガイドラインにはあるべき姿をきちんと示すことが大切。

### 3. M&Aに代わる名称について

- ・ 浸透している言葉が一番良い。事業承継が良いのではないか。
- ・ 事業承継ガイドラインは既にある。今回は、親族内は含めないことから、事業引継ぎが望ましいのではないか。
- ・ M&Aを外さない方がいいのではないか。言葉が市民権を得て、社会に広がっていく部分もある。事業引継ぎは事業承継と紛らわしい。
- ・ 事業引継ぎだと、また税務の話かと思ってしまう。他方、M&Aは堅くて、狭い。
- ・ 副題をつければ良いと思う。事業引継ぎという名前は欲しい。
- ・ 名称は短いものが良い。副題までつけると浸透しない。
- ・ 地方では、第三者に会社を売却することは悪だという風潮があるので、それを払拭するようなものがある。